

【学習指導案作成上の留意事項】

- 1 書式は固定的なものではなく、**教科等の特性に応じた書式にする。(各教科の指導案を参照)**
- 2 次の点が学習指導案から読み取れるようにする。
 - (1)指導者が本単元で児童生徒に伸ばしたい資質・能力を把握しているか。
 - (2)指導者が本単元に関わる児童生徒の実態を把握しているか。
 - (3)指導者が教材観及び実態を踏まえて指導方針を立てているか。
 - (4)指導計画を適切に作成しているか。
- 3〔**呂宋郡学校訪問指導における一般授業の場合**〕4ページ程度にまとめる。

総合的な学習の時間 学習指導案

令和〇年〇月〇日（〇）第〇校時 4年〇組（〇〇教室） 指導者 〇〇 〇〇

1 単元名

どのような学習が展開されるかを一言で端的に表現したものが単元名である。児童生徒の学習の姿が具体的にイメージでき、かつ、学習の高まりや目的が示唆できるように配慮し設定する。

（例）誰もが住みよい街づくりを目指して ～これからの自分と地域に必要なこと～

2 教材観 ※ 簡潔に書くようにする。

(1) 学習指導要領上の位置付け並びに単元の価値

※ 本単元（教材）を取り上げる意義などを記述する。

例示を参考に、各学校の総合的な学習の時間の目標や、児童生徒、学校、地域の実態に応じて、探究課題を設定します。その際、各学校の教育目標の実現にふさわしい課題とすること。

例示では

現代的な諸課題：国際理解、情報、環境、福祉・健康、資源エネルギー、安全、食、科学技術など

地域や学校の特色に応じた課題：町づくり、伝統文化、地域経済、防災など

児童の興味・関心に基づく課題：キャリア、ものづくり、生命など

が示されています。さらに、以下の三つの要件を適切に実施することが分かるように記述する。

1. 探究的な見方・考え方を働かせて学習することがふさわしい課題であること
2. その課題をめぐって展開される学習が、横断的・総合的な学習としての性格をもつこと
3. その課題を学ぶことにより、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくことに結びついていくような資質・能力が見込めること

（例）本単元は、「横断的・総合的な課題（現代的な諸課題）」から障害のある人やお年寄りなどの人々とその暮らしを支援する仕組みや人々（福祉）に視点を当て、その取組の現状や課題、よさ、自分もできることなどを発信する学習である。

本校は、玄関にはスロープ、2階には身障者用トイレがあったり、段差が少ない設計となったりしている。普段当たり前のように生活している場所で、ブラインドウォーク、車いす体験、高齢者疑似体験などの体験を通して、施設や道具のよさ（機能）や予想以上の不便さについて気付かせる。そして、自分で感じた問題点を自分事の課題として捉えさせ、身近な地域で探究活動を行うことにより、必要感のある課題となる。また、この課題解決に向けて他者と協働して取り組み、その学習過程や成果を共有することは、学級や地域の一員としての自覚を促し、地域への愛着を育むことにもつながる。（略）

(2) 今後の学習への活用

※ 本単元での学習が、今後の学習や他学年の学習及び生活にどう活用されるのかを記述する。

ここでは、以下の2点に絞って記入する。*当該学年での総合的な学習の時間や他教科との関連については、指導方針（添付資料：単元配列表）にて示す。

- ①本単元で扱う三つの課題における位置付けと同じ探究課題について、以後学習する探究課題を記載する。
- ②本単元と関連する当該学年以降の学年で学習する他教科の学習事項について簡潔に記載する。

(例)

①現代的な諸課題

- ・地域に暮らす外国人と交流会をしよう（国際理解教育：5年）
- ・sukiyaki パーティーをしよう（食：6年）

②理科（6年）「電気の利用」

3 児童生徒の実態及び指導方針（〇名）

(1) 既習の学習内容や活動

※ 本単元を指導する上で参考となる既習の学習や活動を記述する。

当該学年で、初めて扱う単元については、前学年の単元での参考となる既習の学習や活動について記述する。当該学年で2番目以降に扱う単元では、当該学年の単元での参考となる既習の学習や活動について記述することを基本とする。同様の単元を既習していれば、分かる範囲でさかのぼって記述する。

(例) 児童は、第3学年「発見！〇〇町の宝物」で、地域の自然、産業、公共施設などのよさを体験を通して見付けたり、そこで働く人々にインタビューしたりする経験を通して、そこで得た特徴やよさを模造紙にまとめ、発信する学習を行ってきた。しかし、各教科で身に付けた資質・能力を働かせたり、広範囲な事象を多様な角度から俯瞰して捉えたりといった総合的な学習の時間に固有な見方・考え方を働かせることや、「考えるための技法」を十分に活用する機会が少なかった。探究の過程において意図的・計画的に指導していく必要がある。

(2) 本単元に関わる児童生徒の実態

*本単元のねらいや学習活動に関わる実態を3観点で記述する。

- 課題の解決に必要な知識及び技能に関する実態を記述する。(知識・技能)
 - 実社会や実生活の中から、問いを見いだす力、自分で課題を立てる力、情報を収集したり、整理・分析する力、まとめ・表現する力について記述する。(思考・判断・表現)
 - 探究的な活動に取り組んだり、互いのよさを生かしたりしながら、社会に参画しようとする態度について記述する。(主体的に学習に取り組む態度)
- *3観点のそれぞれを評価規準に照らし合わせて記入してもよい。

(例) アンケートやこれまでの学習の様子から以下のようなことが分かった。

- ・前単元の「野菜博士になろう」の学習では、農家の人へのインタビュー項目を事前にグループで話し合い質問することができた。しかし、メモを読むことにとらわれ、目を見て話すことができなかった。体験活動では、予想される危険なことを考え、その対処（回避）法も考えた上で体験を行うことができた。（知識・技能）
- ・点字ブロックや点字については、見たことがあると回答した児童は7割であったが、その意味を知っていると回答した児童は2割であった。また、町内に設置してある音声付き信号の場所（1カ所）について知っている児童は1割であり意識が向けられていない。（知識・技能）
- ・野菜の栄養素、自給率などに視点を当てながら自ら課題を設定することができた。自らの課題に関してインターネットを活用し情報を収集することができたが、1つの情報源でしか収集しておらず、複数の情報を分析している児童は数名であった。学習のまとめとして全員が模造紙にまとめたので、他の方法を選択させ、まとめさせたい。また、発表会では、声が小さかったり、模造紙を読むだけの発表だったりする児童が多かったので、発表の仕方についても議論させたい。（思考・判断・表現）
- ・第1学年「昔の遊びをしよう」でお年寄りとの関わりをもったことにより、お年寄りと触れ合うことに楽しさを感じている児童が多い。（主体的に学習に取り組む態度）
- ・障害のある人と接した経験がある児童はいなく、障害のある人に対して、不自由さや不便さがあるという漠然としたイメージや助けたいと思う気持ちはあるが、実際に行動に移したことがある児童はいない。（主体的に学習に取り組む態度）

(3) 指導方針

※ 伸ばしたい資質・能力、既習の学習内容や活動、実態を踏まえ、単元全体に関わる指導上の工夫を記述する。

【校内研修の検証や成果発表の授業の場合】

※ 「校内研修とのかかわり」を4番として位置付ける。

学校教育目標との関連性、地域社会や地域の人々、各教科との関わりを記述する。なお、各教科との関わりについては、各校で作成してある単元配列表を掲載または、参考資料として添付してもよい。

(例)

- ・本校の教育目標「関わりを大切にし、夢をもち、たくましく生きる子」の実現に向け、友達だけでなく地域の人々と関わったり、誰もが住みよい社会を目指すことで将来への希望を抱かせ、積極的に社会参画しようとする態度が養えたりできるような学習過程を設定した。
- ・探究的な見方・考え方が育成できるように、つかむ過程では、道徳的な見方・考え方、追究する過程では、理科の見方・考え方を意図的に働かせるように声かけする。また、つかむ過程では、ウェビングマップ、追究する過程では、ベン図を用いることで「考えるための技法」に触れさせる。このような活動を取り入れ横断的・総合的な学習になるようにする。

4 単元（題材）の目標

- ※ 教師の立場で記述する。
- ※ 学習指導要領の内容を受け、伸ばしたい資質・能力を明確にし、3観点で記述する。

「内容のまとめり」をもとに、単元全体を見通して、単元の目標を作成する。以下の4つの要素を構造的に配列すること。

- ア 探究課題を踏まえた単元において中心となる学習対象や学習活動
- イ 育成を目指す具体的な資質・能力のうち、単元において重視する「知識及び技能」
- ウ 育成を目指す具体的な資質・能力のうち、単元において重視する「思考力、判断力、表現力」
- エ 育成を目指す具体的な資質・能力のうち、単元において重視する「学びに向かう力、人間性等」
- * イ～エは、アとの関わりにおいて作成する。

(例) 〇〇市の福祉に関する調査活動や福祉体験活動を通してア、高齢者や障害をもつ人々の立場になって、地域の現状や問題点を把握したり、その方々の思いや願いを理解したりし、それを解決するための具体策を考えウ、これからの自分の生き方や地域の在り方について見つけ直すことができるエ。

5 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>※ 評価規準の設定に当たっては、国立教育政策研究所作成の『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料（小学校）（R2.6）を参考にして適切に設定する。</p>		
<p>「内容のまとめりごとの評価規準」をもとに、具体的な学習活動から目指すべき学習状況としての児童の姿を想定し、単元の評価規準を作成する。</p>		
<p>①福祉について、地域の現状や問題点、それに関わる人々の思いや願いを理解している。</p> <p>②よさや特徴を分類・比較・関連付けする思考ツールを使ったり、様々な体験活動や調査活動を安全に行ったりしている。</p> <p>③地域の福祉と自分たちの生活がつながっていることを理解できたのは、地域福祉の現状やそれに関わる人々の思いを探究的に学習してきたことの成果であることに気付いている。</p>	<p>①地域の福祉について、体験活動や調査活動を結びつけて、地域の福祉の問題を見つけ出し、課題を明らかにしている。</p> <p>②地域の福祉の現状を捉えるために必要な情報について、手段を選択して多様な方法で収集したり、種類に応じて蓄積したりしている。</p> <p>③課題解決に必要な情報を取捨選択したり、複数の情報を比較したり、関係付けたりしながら解決方法を考えている。</p> <p>④地域の福祉の問題を解決することについて、調査結果をグラフや写真を使って効果的に表し、報告書にまとめ、発表している。</p>	<p>①課題解決に向けた自己の取組を振り返ることを通して、自分の意志で探究的な活動に取り組もうとしている。</p> <p>②地域の福祉問題改善に向けた探究的な活動体験を通して、自分と違う友達の考えを生かしながら、協働して課題解決に取り組もうとしている。</p> <p>③地域の福祉への関心を高め、誰もが住みよい街づくりのための提案や行動を考え、自ら社会に関わろうとしている。</p>

6 指導計画（全○時間予定）

○：記録に残す評価 ・：指導に生かす評価

学習過程	時間	○ねらい ・ 学習活動	・ 主な指導上の留意点	評価の観点
		※ はばプラⅡの「単元のつくり方」等を参考に、単元を構成する。 ※ ねらいや学習活動は、端的に記述する。 ※ 複数時間をまとめて記述したり、本時に関わりの少ない時間を省略したりするなど工夫をする。	※ 最も中心的な留意点に絞って記述する。	・ 思①
			※ 記録に残す評価場面を精選し、位置付ける。	○ 知③ ○ 態③

既存の単元計画をもって指導計画に充てることも可。その場合は、別紙資料として添付する。

1時間ごとに記載するのではなく、学習過程のまとまりで記載する。例えば国立教育政策研究所作成の『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料』（小学校）』（R2.6）では、小単元を設定し、小単元に分けて記載している。また、「はばたく群馬の指導プランⅡ」では、学習過程で記載している。これらを参考にして、探究の過程が繰り返されるような指導・評価計画を立てる。

7 本時

(1) ねらい

※ 教師の立場で記述する。

例：「～を通して、～できるようにする。」

※ 「指導案」は「案」であり、実際の授業では、児童生徒の反応に応じて柔軟に対応する。

(例)

○ 追究する①の過程で考えた地域の福祉の改善点について、成果発表会で出された意見カードや共通課題を友達との話し合い活動を通して、その問題点を考え、新たな課題を設定することができる。

(2) 準備

※ 教科書・ノートは書かない。ここで書かれたものはどのように使われるのかがわかるように、「(3)展開」や「8板書計画」の中に記述する。

教師：ワークシート（Y字チャート）

児童：個人ファイル、意見カード

(3) 展開

※ はばプラⅡの「単位時間のつくり方」等を参考にし、主体的・対話的で深い学びになるように計画する。

※ 児童生徒の立場で記述する。

※ 児童生徒の思考の流れを予想し、主な発問（T）や主な反応（S）も記述する。

※ 「～できるように、～する。」のように教師の意図と手立てを明確に記述する。

※ 実態を踏まえたり、つまづきを予想したりし、具体的な支援を記述する。

※ 主体的・対話的で深い学びになるように、どんな工夫をしていくのか記述する。

※ 活動を入れる場合には、どのような目的で、どのように学びを深め、ねらいに迫るのか等の視点からも記述する。

学習活動 ・予想される児童生徒の反応	指導上の留意点及び支援・評価 ◎努力を要する児童生徒への支援 ◇評価
1 本時のめあてをつかむ。(3分)	○学びをさらに深め、よりよい提言をしていこうとする意識を高め、持続させられるように、「追究する①」での学びの過程を賞賛する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> めあて：「追究する①」での改善点について、よさや問題点を整理し、よりよい提言ができるよう新たな課題を設定しよう。 </div>
2 「追究する①」での問題点やよさに出会う。(個人：10分) S：・この点はよかったんだ。 ・この点は、調べていなかった。 ・この点を詳しく調べよう。 3 「追究する①」での問題点やよさに出会う。(グループ：15分) S：・こんな意見カードをもらったよ。 ・私は〇〇と考えたよ。 ・〇〇ってこの境界線上かな。	○前時、前々時の成果発表会で出された友達の意見カードを参考に、ワークシート（Y字チャート）に分類させる。Y字チャートの扱い方について簡単に説明する。 ○同じ課題で調べてきた児童同士をグループにさせ、問題点について話し合わせ、情報の修正や整理をさせる。また、新たな視点に気付かせる。 ○できあがったY字チャートを比較させ、追加や修正がないか考えさせる。
4 「追究する②」での自己の課題を設定する。(12分) S：・〇〇について、△△させる方法を調べたい。 ・〇〇について、自分のできることを調べよう。	○作成したY字チャートを基に、問題点だけでなく、よさにも着目させ、よさを伸ばすということにも気付かせる。 ◎自己の課題が決まらなそうな児童には、Y字チャートに書かれている言葉の中で、一番興味があるものは何かを尋ね、そのことを詳しく調べていけばよいことを助言する。 ◇Y字チャートを基に、新たな課題を設定している。(思① ワークシート)
5 本時の活動を振り返る。(5分) S：・Y字チャートを使ったら、詳しく調べていないことが多かったので、いろいろな点から調べていこうと思う。 ・意見カードや自分では思いもつかなかったことを友達が教えてくれたので、新しい課題を決定することができた。 ・調べることが決まったので、どんな順番で調べるか計画を立てよう。	○どのように学んだか、何を学んだかという視点で振り返りができるよう助言する。 ○次時につながるような視点で振り返りを書けた児童を意図的に指名し発表させ、次時の見通しをもたせる。

8 板書計画

- ※ 児童生徒の思考の流れが分かるような板書にし、見方・考え方を可視化する。
- ※ 実際に板書をし、写真を貼り付けると分かりやすい。